

「タクシーがゐる」の文法
——存在動詞の使い分け——

竹 端 瞭 一*

The Grammar of 'Taxi ga iru'
On the Classification of Verbs of Existence

TAKEBA Ryôiti

Abstract

Verbs like the 'be' verb in English express existence of both animate beings and inanimate things, and moreover, they function as copulae to join the subject and the predicate of a sentence. On the other hand, some Japanese verbs like 'aru' express the existence of inanimate things, while the others like 'iru' are used, in principle, for the existence of animate things. Because of this peculiar classification of verbs, learners of Japanese are often puzzled over their choice of verbs. The verb 'iru' and others of its kind, such as 'oru' are used for existing of living beings, but they are, according to circumstances, used even either for taxis standing by on the street or ghosts in the dark who are not 'living' or very animate. These verbs are used, also, in the progressive forms and the forms of continuance for states, too, like 'Mado o akete iru,' and 'Mado ga akete aru.'

Key Words: verbs, existence, animate, inanimate, aspect

はじめに

日本語教育上の問題点の一つとして「ある」と「ゐる(居る)」を取り上げる。日本語の特色である存在動詞または存在詞「ある」と「ゐる」の区別、および、アスペクト表現における自動詞・他動詞と存在詞の関係について述べる。学習者はしばしば「オバケは、ゐますか？」

*教授 日本語学・日本語教育

ありますか?」とたづねる。「生き物」ではなくとも、日本語の感覚として、動くモノ（まさに、モノノケ）は考え、行動する生きてゐるヒトのごとき存在であるから、当然「オバケがゐます」と言ふ。同時に、「あそこの交差点にタクシーがゐます」とも言ふ。

§ 1. 存在動詞「ある」と「いる」

1. 1. 'Be' 動詞に対応する「ある」、「いる」および「だ／である」

英語の 'be' 動詞は、あるモノが生物 (animate creatures) であるか、無生物 (inanimate objects) であるか、またはコト (事件・事柄, matters) であるかにかかはらず、それが存在してゐることを表現できる。さらに「Aがxである」といふ命題を表す場合にも、同じ動詞が copula (繫辞) としても機能する。英語などインド・ヨーロッパ語族の言語とは性質の違ふ多くの言語「ある」、「ゐる」、「である」を別々の語で言ひ分けず、一つの動詞で表現する。ウラル語族のフィンランド語における 'olla' (語幹 ol-) も 'be' 動詞と同じやうな働きをする。'olla' 「ある、ゐる／である／てゐる」などの意味を受け持つ。

日本語と文法構造のよく似てゐるトルコ語にすら、「ある」と「ゐる (wi-ru), をる (wor-u)」の区別はない。トルコ語の存在を表す形容詞 'var' および非存在の 'yok' は「人がゐる／ゐない」にも「山がある／ない」にも用ゐられる。

英語の 'be' 動詞などが文の copula (繫辞) 「～である」としても用いられるのに対し、東のアイヌ語、日本語から西のモンゴル語、トルコ語まで、「～なり (也), ～です」を示す動詞 (断定の助動詞, 文末詞) を用ゐる点に共通性が見られる。例えば、アイヌ語でも、'an' (ある、ゐる) ではなく、'Tanpe sakipe ne.' (これ・鮭・だ) と、動詞 'ne' (～だ／に成る) が文末に来る。韓国語は 'Iges-un kom-ida.' (これは・熊だ) と言ふ。

ついでながら、韓国語も敬語法が発達してゐるので、名詞文の「だ／です」に当たる 'i-da' は、'kom-immida' (熊でございます), kom-iyo (熊です) などにもなる。

トルコ語でも、確認の意味を示す語尾 '-dir' は名詞や形容詞について文末に来る。'Nasilbir filmdir?' (どんな映画である?), Bugün hava iyidir.' (今日は天気がいいのだ。) ここで、「ある」、「ゐる」および「である」に関する日英2言語の簡単な比較対照を試してみる。

[E11-1] There is a dog in the street. [動物, 生物; animate]

「通りに犬がゐる。」

[E11-2] Do you know where my mother is? [人, 生物; animate]

- 「母はどこにゐるかご存じ？」
- [E11-3] A lot of bottles are in the cellar. [モノ, 品物; inanimate]
 「貯蔵庫にビンがたくさんある。」
- [E11-4] An earthquake happened last night. [コト, 事件; inanimate]
 「ゆふべ地震がありました。」
- [E11-5] She is a student. [人, 生物; 繫辞, copula]
 「彼女は学生です。」
- [E11-6] That building is up-to-date. [モノ, 品物; 繫辞, copula]
 「あの建物は現代的だ。」
- [E11-7] The earthquake last night was terrible. [コト, 事件; 繫辞, copula]
 「ゆふべの地震はこはわかつたです。」

1. 2. むかし竹取の翁といふ者ありけり

古典日本語（文語）における存在の「あり」は、人にもモノにも用ゐられた。その結果、現代語の昔話にもそのまま直訳されて伝へられることもある〔後述 J12-4 参照〕。かつてオーストラリア人の同僚の日本語教員に、このような「まぎららしい表現」はやめたほうがいい、と言はれたことがある。

しかし、「ある」は、モノやコトの存在を表すだけでなく、時には家族とか能力、機会を持ってゐることも表す。現代語でも「ある」は色々な場面でヒトが主格である文または節の述語動詞として登場する。

- [J12-1] 彼は子供が二人ある。 He has two children. (There are two children to him.)
 (「二人ゐる」も可。)
- [J12-2] 彼は家族がある。 He has a family. (There are a family to him.)
 (「家族がゐる」?)
- [J12-3] さう主張した人もあつた。 Once there were men who asserted like that, too.
 (「する人もゐた」とも。)
- [J12-4] むかしむかし、おちいさんとおばあさんがありました。
 ‘Once upon a time there lived an old man and an old woman at somewhere.’
- [Fil2-1] Hänellä olivat kaksi lasta.
 《彼に 有る 二人子供が (分格単数)》

[Fi12-2] Onko teillä Suomen karttoja?

《有るか？ あなたがたにフィンランドの地図が（分格複数）》

上記の例文 [J12-1] は、何人あるか、といふ数量にも焦点が当てられている。[J12-2] の場合は数量ではなく、所有・関連対象の性質が関はっている。「妻がある」（妻がある）や「（扶養すべき）年とった親がある」なども同じで、単なる存在文ではなく、状況の説明する文となつてゐる。「私は仕事がある」、「彼はお金がある」とほとんど同じ性格の状況説明と見てよい。[J12-1] 以下の日本文は、フィンランド語例文 [Fi12-1]・[Fi12-2] の構文に近く、「彼に子供がゐる（ある）」、「貴店にフィンランド地図があるか」といふ意味での存在文と見ることができ

る。一方、第4の例は、日本のおとぎ話の典型的な始まり方であり、次のやうな古典語の表現が、半ば文語的な形で伝承されてゐる姿である。

[OJ12-1] むかし竹取のをきなといふ者在りけり。〔『竹取物語』AD 900年ごろ成立〕

‘Once upon a time there lived / was an old man who gathered bamboo shoots and trees.’

[OJ12-2] ^{おほみことの}大御神詔りたまひしく、「いましはこの国に在るべからず」とのりたまひて、^{かむやらの}神逐ひやらひ^{たま}賜へり。（大御神詔、汝不可在此国、神夜良比賜。〔『古事記』上巻「須佐之男命の追放」〕

すでに触れたとおり、古典日本語（文語）では存在動詞「あり」の類義語として、次のやうな動詞が使はれてゐた。今日の「ある」と「ゐる」の弁別にも関係がある事実なので、それぞれの意味を簡単に説明する。

- | | |
|----------------|---|
| (1) まします（坐します） | 神仏、貴人がおいでになる。 |
| います（坐す、座す） | 「あり、をり、行く、来る」の上級の尊敬語。漢文訓読体にも用いられる。「木島 <u>坐</u> 神社」（このしまに <u>います</u> 神のやしろ、京都太秦の蚕の社）、などの例。 |
| ます（坐す、在す） | 同上。ただし、現代の丁寧語尾「～ます」は室町以降「まゐらす→まるす」に由来する別語。 |
| おはす | 皇族、貴族などがいらっしゃる。平安時代以後、かな文学に多く用ゐられる。 |

「タクシーがある」の文法

(2) いまそがり (坐そがり)	いますがり・いまそがらふ 貴人などがおいでになる。 「たかい子と申す <u>いまそがり</u> けり」(『伊勢物語』第39段)
あり (有り)	生物・無生物が存在する。「あり」をふくむ(2)の動詞・助動詞がラ行変格活用であった。「あり,をり」は、鎌倉時代以後、四段活用の「ある」に変わった。
なり	「～に在り」のちぢまった形。助動詞に分類される
たり	「～と有り」(～として存在する,～した)
をり (居り)	「坐(ゐ)+在り」座ってちっとしてゐる。主に自分・従者・動物などの存在,動作の持続をあらはす。
はべり (侍り)	神・貴人にお仕へする。丁寧語「～します」の用法にも用ゐられる。語源は「這ひ+あり」からか〔岩波古語辞典〕

[OJ12-3] そらみつ大和の国はおしなべて吾こそ居れ, しきなべて吾こそ座せ… (虚見津山跡乃国者, 押奈戸手, 吾許曾居, 師吉名倍手, 吾已曾座… [『萬葉集』卷一, 巻頭の長歌])

[OJ12-4] (やまたのおろち〔日本書紀では八岐大蛇〕の) 身一つに八かしら, 八尾有り。
‘The monster serpent called yamata no oroti has eight heads and eight tails.’
〔『古事記』上巻, 712年成立か〕

[OJ12-3]の歌では、雄略天皇自身が「をり」と「ます」の2語を自称の動詞として使っている。長歌を伝承する第3者が、主人公に代はり「座す(いらっしゃる)」と歌ったのかもしれないが、天皇自身が「をり」と「ます」の両方を用ゐるものとして伝えられた表現と考へてよい。[OJ12-4]の例では、大蛇のからだ一つ、といふ「場所」に頭と尾といふモノが八つ(「多い」ことを示す)存在してゐることを表してゐる。

このやうに多彩であった古代以来の存在動詞類は、やはり敬語法に深く関はつてゐる。そのことが今日の「ある」と「ゐる」の両方を駆使する、豊かな表現力につながるのである。

1.3. 「ある」と「ゐる」の区別

「ある」と「ゐる」の区別は日本語の特色の一つである。この言語現象は、文法機能においてきはめて日本語に似てゐる韓国語にさへ存在しない。韓国語の存在動詞‘iss-ta’(있다; 発音

[itta]) は, animate (生物, 動くもの) と inanimate (無生物, ものごと) の違ひに関はず用ゐられる。「ある／ゐる」区別があるので, 日本語に関する解説は, また一段と込み入ってくる。冒頭に述べたとほり, 時には「車がある」とも言ひ, 「オバケがある」とも驚かす。では, 死者はどうか。事件の際に「死んだ人もゐます」とも言ふし, 事件の情報として「なくなった人もあります」とも言へる。「安置所に遺体がある」の場合には, すでにモノと見なしてゐるが, 「庭に死んだへびがアル」とは言はない。まだ生命反応に近い感じがするからであらうか。

タクシーやバスなど, 動いて運ぶ機械は, その運行中に一時止まってゐる場合, 「ゐる」本来の「動かずにゐる」といふ意味とは別に, 「動く者」として「ゐる」が用ゐられるのではないか。走行中のタクシーを見ても, 「あ, 今朝はタクシーがだいぶゐますね」といった会話をかすことができる。

日本語と韓国語において共通なのは, 英語の 'be' 動詞などと異なり, 動詞「ある」を繫辞 (copula) の「～だ, ～である, ～です」としては用ゐない点である。例えば, 英語の be 動詞は, 'She is Australian.' (あの女性はオーストラリア人です。) のやうに「ゐます」以外の用法があり, フィンランド語の存在動詞 'olla' (語幹 'ol-') も 'Onko Suomi?' (Is she/he Finnish? あの人はフィンランド人ですか?) のやうに文の繫辞「だ／です」としても用ゐられる。

- | | |
|--|---|
| [J13-1] あそこに姉がゐます。 | There <u>is</u> my big sister over there. |
| [J13-2] テーブルの上にバナナが <u>あり</u> ます。 | There <u>is</u> a banana on the table. |
| [J13-3] 佐渡は大きな島 <u>です</u> 。 | Sado <u>is</u> a big island. |
| [K13-1] Chegi ey enni ga <u>isseyo</u> . ('issta' 丁寧形) | There <u>is</u> my big sister. |
| [K13-2] Theybul u e panana ga <u>isseyo</u> . | There <u>is</u> a banana on the table. |
| [K13-3] Chejudo nun khun sem <u>iy</u> o. ('ida' 丁寧形) | Cheju <u>is</u> a big island. (注 1.3) |

日本語, 韓国語とも, 主語の性別や数の違ひによって動詞の語形は変はらない。しかし, どちらの言語でも, 丁寧さと尊敬の度合ひは, 動詞に付く語尾 (付属語) の違ひによって示される。単なる丁寧形は「ゐます」になり, 謙讓を示す場合には別の動詞「をる, をります」に置き換へる, といった点は韓国語も同じである。例えば, 'issta' (ある, いる) に対し, 'isseyo' (あります, ゐます), 'issubnida' [発音 i'sumnida] (ございます) と語尾で表すが, 「いらっしゃる」に対しては 'kyeysida' [ke:ʃida] という, 当然ヒトだけに用ゐられる尊敬動詞を用ゐる。

上述の例文 [J13-1] の「ゐます」は, さらに鄭重な表現を求められる場では, 謙讓語「をります」となる。聞き手あるいは第3者の姉についてであれば, 「いらっしゃいます」や「お

いでになります」などと尊敬語で言はなければならない。

物事や状況に関する動詞「ある」には、尊敬語ではなく、鄭重な丁寧語「ございます」が用ゐられる。「ありがたうございます」は「ありがたく+ある」の丁寧な言ひ方である。「(他人に)子どもが3人ある」の「ある」に対しては、本来「ございます」ではなく、鄭重な尊敬語「おありです」とか「いらっしゃいます」が適切であらう。

動詞「ある」は、モノやコトの存在を表すだけでなく、時には家族とか能力、機会を持ってゐることも表す。

[J.13-4] あの人は子供が二人あります。 That man has two children.'(There are two children to that man, literally.)

[J.13-5] かれはお金がある。 He has a lot of money.'(There is much money to him.)

このほか、モノに関する「ある」の丁寧な文体(デス・マス体)における丁寧形(polite form)が「あります」で、さらに鄭重な文体では「ございます」となること、また、ヒトに関する例文[J.13-4]では尊敬語としての「おありです」なども用ゐられる。ヒトに対する「ある」の丁寧語として、「ゐます」、謙譲語「をります」、尊敬語「いらっしゃる、いらっしゃいます」などの使ひ分けも、日本語の学習者にとって、かなりの負担である。「先生があちらにゴザイマス」のやうな誤用も起こる。Copulaの「だ、である」の丁寧語としての「私の先生デゴザイマス」は認められるであらうか。さらに、「だ/です」には「～であられる」といふ尊敬語もある。かうした複雑な表現法の絡み合ひも、国語教育ならびに日本語教育の現場での慎重な指導の求められる問題点である。

1.4. 「ある」と「をる」の由来

歴史的仮名遣ひでは「いる」(iru)という語形は、「入^ルる、射^ルる、炒^ルる、要^ルる」(注1.4)を表し、本論で取り上げる存在詞あるいは存在動詞の「いる」は「ゐる(居^ルる)」(wi-ru)である。また、「おる」(oru)と書けば「降^ルり、下^ルり、織^ルる」であって、存在の「をる」(東京アクセント、を^ルる)は「をり(古文),」(居り wori)を引きついで動詞である。なほ「折^ルる」も、アクセントの異なるもう一つの「をる」である。

「ゐる」は元来人がその場から動かずに居る状態を意味してみた。動かずに坐ってゐるさま、動かずに目上に仕へているさま、でもあった。『岩波古語辞典』(1974)等によれば、「をり」

も「ゐ+あり」の結合に由来する動詞である、とされる。「をり」も本来は「ぢっとすはりつづけてゐる」といふ意味が強かった。奈良時代には自分がそこにあることを表し、平安時代になると、自分または従者、侍女、動物などの状態を表す場合に用ゐられた。

「をり、をる」のかうした成り立ちから、現代語でも謙譲の存在動詞として用ゐられるわけである。ただ、中部地方から西の方言では、さらに一般化して人や生き物が存在する状態全体に用ゐられるようになったので、織田信長や徳川家康の生まれ育った地域では「殿が～をられる」といふ尊敬表現も当然認められる言ひ方である。

古来、存在動詞の多いことも日本語の特色である。古典語には「あり、をり、はべり、いまそがり」という「あり」を内蔵するラ行変格活用が存在動詞があった。国学者・富士谷成章の『脚結抄』（あゆひせう、1773刊）では、これらの特殊な活用の動詞を「孔（ありな）」と分類している。時枝誠記は「あり」を「詞」としての動詞とせず、助動詞などと同じく「辞」の構文機能をもつものと考えてゐる。〔『日本文法 口語篇』、1950〕

トルコ語の‘var’（ある、ゐる）およびその否定の‘yok’（あらず、ない、ゐない）が「形容詞」と認定されるのも、時枝の示唆につながるものと考えてよい。「ある、をる」と同時に「なる」の意味を示す‘ol-mak’（語幹 ol-）は人称や時称の語尾を取る動詞であるが、‘var’は変化しない。韓国語の‘issta’（ある、ゐる）と‘epsta’（ない、ゐない）も、形容詞と同じやうに活用する。

存在動詞としては、古くから『古事記』などに神々と大君の存在を表す尊敬語「います（座す）、ます、まします」があり、「おはす、おはします」もあった。後には「さもらふ（候ふ）、さぶらふ、さうらふ」も盛んに用ゐられてきた。本稿の目的は、「ある」と「ゐる」の区別およびその用法にあるので、それらについては今回はくはしく論じないが、このやうな区別も存在動詞の多彩さと敬語法の繁栄が契機となったと考えられる。

1.5. 動詞「ある」に否定形「あらない」は無い

この節の題は「肯定と否定が別々の単語」としてもよいところである。古文の「あり」に対しては、「あらず」（ない）、「あらじ」（ないだらう）といふ否定形を考へることができる。ところが、現代日本語の「ある」は中世以来、四段活用の「普通」の動詞にに変わる一方、文語的な「あらず」の代わりに非存在の形容詞「ない」を用ゐるやうになった。存在動詞に対して直接の否定形がないことは、日本語のみならず、アイヌ語、韓国語にも類似の現象がある。〔日本語J、アイヌ語A、韓国語（朝鮮語）Kの略語を用ゐる。〕

〔J15-1〕 Kawa no soba ni ie ga aru.

〔J15-2〕 Kawa no soba ni ie wa nai.

「タクシーがゐる」の文法

- [A15-1] Pet sam-ta cise an. [A15-2] Pet sam-ta cise isam.
 [K15-1] Kang yeph-e cib-i issta. [K15-2] Kang yeph-e cib-un epsta.

もともと日本語には存在の否定を表す形式が2種類あった。動詞「あらず」と形容詞「なし」とであるが、結局室町時代以後の近代語では否定形容詞が有力となる。「あらず」の近代風な否定の終止形は「あらない」になるはずだったが、さうはならず、「心ここに在らず」(終止形)とか「あらぬ疑ひを受ける」(連体形)のやうな慣用句の中に否定形の一部が伝はるのみである。

アイヌ語でも「ある、ゐる」に相当する動詞 ‘an’ [単数], ‘okay’ [複数] に対する否定「ない、ゐない」は形容詞性の自動詞 ‘isam’ 《ない、ゐない、ゐなくなる》である。その他の動詞の場合は、その動詞の前に打ち消しの副詞 ‘somo’ や禁止命令の ‘iteki’ を置いて、否定を表すが、存在動詞に対しては非存在形容詞を用ゐる点でアイヌ語も日本語と同じ傾向を見せる。韓国語の ‘epsta’ [発音は əp’ta] 《ない、ゐない》は、用法から形容詞と見られる。「ない」(「ある」の否定)と「いない」の区別のない韓国語では「書いてある・書いてない」と「書いてゐる・書いてゐない」の使ひ分けはない。ただ、一般の形容詞ならば ‘-nun’ が付属せずに、‘-un’ (動詞の完了連体形と同じ) が付いて ‘khun nara’ (大きな国), ‘cagun agi’ (小さい子) などの連体形語尾と違い、‘epsnun ket-poda nasta.’ (無いのよりマシだ) のやうに、‘epsta’ は、ほかの形容詞と異なり、連体形(未完了)が動詞 ‘megnun kes’ (食べるもの) などと同じ語尾を取る。

アルタイ型の文法構造をもつ言語の一つ、トルコ語(テュルク諸語)にも、前述のごとく、存在を示す形容詞 ‘var’ に対し、否定の形容詞 ‘yok’ がある。ウラル語族に属するハンガリー語(マジャル語)にも否定詞 ‘nincs’ [nintʃ] があり、フィンランド語の否定詞 ‘ei’ も動詞なみの人称語尾をともなつて文を成立させる。本動詞の前に置かれて動詞と同じ人称変化(人称語尾の膠着)をする ‘ei’ 自身を、フィンランド語辞典は動詞に分類している。本動詞がなくても「ない、ちがふ」の意味を単独に示すことができる。ただし、モンゴル語では、‘baikh’ 《ある、ゐる》の後に否定詞 ‘ügüi’ を付属させ、否定形 ‘baikh ügüi’ を作る。〔以下、トルコ語 Tr, ハンガリー語(マジャル語) Hu, フィンランド語(スオミ語) Fi と略す。〕

- [A15-3] Kimpe haw somo ne un? 熊の声でないだろうか?
 [A15-4] Iteki ikka anpe ne. 盗んではいけないのだ。
 [K15-3] Toni-i cenhye epsta. お金が全然ない。

- [Tr15-1] Kebap var mı? Yok, kalmadı. 焼き肉あるかい? ありません, 残らなかった。
 [Hu15-1] Már nincs hely. もう席はない。
 [Fi15-1] Emme mene naimisiin. 私たちは結婚しません。(‘ei’ 2人称複数)

§ 2. 形式動詞としての「ある」と「ゐる」

2. 1. 「座ってゐる」は進行形「座りつつある」ではない

タクシーは「ゐる」のかどうか、大きな問題であるが、ここから検討する形式動詞としての「してゐる／してある」表現の中では、山も風も、生きるものについても、平等に「ゐる」と「ある」とが用いられる。

「歩いてゐる」は ‘someone is walking’ と訳せる。歩く動作がつづけられてゐることを表す進行形と言ふことができる。インド・ヨーロッパ語族に属するドイツ語、フランス語など多くの言語には、英語の ‘be doing something’ のやうな進行形がない。文法構造の面で日本語とも似た性質も見られるウラル語族のフィンランド語やハンガリー語も、普通の現在形と進行形とを区別する形式がない。「今」といふ副詞を添えれば言ひ表せると言ふことである。

ところが、ユーラシア大陸に広がる、言はば「アルタイ型」の文法構造を持つアジアの諸言語には、日本語の「してゐる」式の進行表現形式が存在する。一般的な現在形あるいは未完了形と存在詞「ある」による進行形があり、存在詞の完了形、過去形による過去の進行形も表現できる。モンゴル語のやうに、本動詞の接続形を代へることによって、動作の進行のみならず、状態の完了・持続を表す形式を作る言語もある。「持続」といふ用語は、行動の持続、つまり「進行」の意味で使ふこともあるので、結果の持続を「結果」と呼ぶほうがよいかもしれない。トルコ語など、テュルク諸語では、動詞接尾語によって動作の進行を示す。

豊富な副動詞形を持つモンゴル語 (Mo) でも、日本語と同じやうに、副動詞形に存在動詞を後続させる形式で、動作の進行とその結果の状態が維持されてゐることを表現する。副動詞形とは日本語の連用形に相当する語形であるが、モンゴル語の連用形は数が多い。

- [Mo21-1] Tenger-d od garch baina. 《空に星が出てゐるところだ。》〔進行〕
 [Mo21-2] Tenger-d od garaad baina. 《空に星が出てゐる。》〔結果〕(注 21-1)

モンゴル語例文の文末にある動詞 ‘baina’ は辞書形 (連体形) ‘baikh’ 「ある、ゐる」の現在形である。副動詞形の違ひによる意味の区分は、日本語にはないけれども、韓国語、アイヌ語

にも見られる。

- [K21-1] Kulcca-rul ssugo issta. 《字を書いてゐる》〔進行〕
 [K21-2] Uyja-ey anj-a issta. 《椅子に座ってゐる》〔結果〕
 [A21-1] Kanpi nukar kor an. 《手紙を見てゐる》〔結果〕
 [A21-2] Toy ka-ta a wa an. 《土の上に座ってゐる》〔結果〕(注 21-2)

椅子に腰を下ろした瞬間、「すわった」といふ動作が完成する。かういふ性質の動詞を「瞬間動詞」(金田一春彦)あるいは「終結動詞」(藤井正)と呼ぶ。すわった状態をつづけてゐる様を「すわってゐる」と表現する。これについて、進行形のないフランス語を話す人から「すわりかけてゐる」といふ意味かと質問されたことがある。〔金田一春彦著『日本語動詞のアスペクト』ほか参照〕

韓国語であれば、瞬間動詞の場合、‘anjta’ (すわる) に対して ‘anja issta’ (すわってゐる) といふ形の接続形が用ゐられる。一方、動作が進行中であるなら、上記の例文 [K21-1] のやうに、継続動詞 ‘ssuda’ (書く, 使ふ) には、‘ssugo issta’ 《書いてゐる, one is writing》といふ接続形が用ゐられる。

そこで、瞬間動詞である「結婚する」の場合、韓国語で「兄はもう結婚してゐるんですよ。」の意味合ひで ‘kyerhon-hago issta’ は、まるで結婚式の進行最中のような意味になって、文にならない。結果の維持を表す語形を用ゐて ‘Oppa-nun kyerhon-hae isseyo.’ とは言へるのかどうか確かめてみると、それもできないらしい。結局、既成事実の確認のやうな表現、つまり、‘Oppa-nun imi kyerhon-haessumnida.’ (兄はもう結婚しました。) と言ふのである。

日本語から韓国語へ逐語訳のできない場合があるのと同様に、この「～てゐる」は、英語との間にもしばしば重大なズレが見いだされる。

- | | |
|----------------------------|---|
| [J21-1] わかります。 | ‘I understand it.’ ([J21-2] は少し角が立つか?) |
| [J21-2] わか <u>つ</u> てゐますよ。 | ‘I’ve already understood it. Never mind.’ |
| [J21-3] 初めて知りました。 | ‘I knew of it for the first time now.’ |
| [J21-4] 知 <u>つ</u> てゐる? | ‘Do you know?’ (‘Are you knowing?’ ではない。) |
| [J21-5] よく知 <u>つ</u> てゐます。 | ‘I know it well.’ |
| [J21-6] (×) よく知ります。 | ‘I know it well.’ |
| [J21-7] 知りません。/わかりません。 | ‘I don’t know.’ |

[J21-8] ニューヨークに住んでゐる。 'He lives in N.Y.' ('is living' ではない。)

[J21-9] 着物を着てゐる。 'She wears a Japanese dress.' ('is wearing' ではない。)

2.2. 自動詞「あいてゐる」と他動詞「あけてある」

英語の他動詞 (transitive verbs; vt) は目的語を取るといふ指標があつて、自動詞 (intransitive verbs; vi) と見分けやすい。ただし、'open' (あく、あいてゐる、あける) のやうに、語形の上で、自他共に同じ動詞も多い。その点、現代日本語の自動詞と他動詞は、「立つ／立てる」、「見える／見る」のやうに語形が異なるものが多い。しかし、自動詞も「旅に行く、公園を通る、橋を渡る」のやうに、通り道 (経路) を表す格助詞「を」に続くものもあり、「旅を計画する、公園を造る、橋をながめる」などの他動詞と区別するのが、むづかしい。

それでも、「ある／ゐる」などを形式動詞 (補助用言) として用ゐる動作の進行や状態 (完了した結果) の維持を表現する際に、日本語の自動詞、他動詞はそれぞれに興味深い意味作用を示してくれる。ここでは、「しておく、してしまふ、してやる、してくる」など、各種のアスペクト表現の内、「してゐる／してある」の可能性について検討していきたい。

[ア] 存在の自動詞 - [在ってゐる]・- [在ってある]

有る をる (中部から西でよく使ふ。) ゐる (西部方言イテル、イテハル) ございます (岐阜方言ゴザル) いらっしゃる

[-] 表示は、もともと存在動詞であるものが、接続助詞「〜て」をとともひ、さらに「ゐる、ある」とは結び付かないことを示す。ただし、「来てゐる、行ってゐる」の意味の「(+)いらっしゃってゐる」などは可能。

[イ] 可能の自動詞 + [判ってゐる]・- [判ってある]

できてゐる 届いてゐる わかってゐる 見えてゐる 聞こえてゐる 書けてゐる

「できる」以外の可能動詞もすべて結果の維持の意味で「わかってゐる」形式が成り立ち、能力の範囲を示してゐる。ただし、*「有りえてゐる」は「有りうる、ありえる」で十分なため、不必要なのであらう。「成る、完成する」の意味の「出来る」は次の [ウ] に属する。

[ウ] 状態の自動詞 + [来てゐる]・- [来てある]

あいてゐる	閉まってゐる	来てゐる	行ってゐる	似てゐる	☆降りてゐる
枯れてゐる	立ってゐる	坐ってゐる	咲いてゐる	あ (開) いてゐる	☆降ってゐる
止んでゐる	死んでゐる	待ってゐる	始まってゐる	おわってゐる	折れてゐる

☆落ちてゐる ☆散ってゐる 出てゐる 壊れてゐる ☆ふくらんでゐる 現れてゐる
 見つかってゐる 浮いてゐる 沈んでゐる 違ってゐる ずれてゐる 融合してゐる
 合ってゐる 勤めてゐる 接近してゐる¹ (近接, 近い)

☆印の語句は、すでに雪がつもった状況であるといふ意味と共に、「雪が降る」などの現象が進行してゐる意味にも取れる。「勤めてゐる」は状態持続であるが、韓国語では 'kunmwu-hay issta' (勤務してゐる) となり、勤めてゐるといふ状態と、いま仕事中 (進行) の両方を意味する 'ir hago issta' (働いてゐる) とになる。「結婚してゐる」もこのグループに入れられるが、韓国語では完了の 'kyorhon hayssta' (結婚した) となる。フィンランド語 'kuolla' (枯れる) の過去分詞 'kuollut' も、同じく「枯れた」といふ形で「枯れてゐる」といふ意味を表す。「死んでゐる」も状態の自動詞と言へる。愛媛方言など多くの方言で、死にかけてゐる進行状態を「ヘビが死による」と言ひ、すでに死んだものについては完了の維持「死んどる」で区別する。

[エ] 状態の他動詞 + [信じてゐる]・- [信じてある]

愛してゐる 信じてゐる 思つてゐる 喜んでゐる 悲しんでゐる 覚えてゐる
 忘れてゐる 始めてゐる 終へてゐる 変はつてゐる 辞めてゐる こんでゐる
 すいてゐる 許してゐる (手を) 振つてゐる (ひとの失敗を) 嘸^{わら}つてゐる¹

事前に「愛してある」とか「悲しんである」とは普通は言はない。ただ、試験前に「覚えてある」と言ふ可能性はなきにしもあらずである。

[オ] 動作 (うごき) の自動詞 + ☆ [泣いてゐる]・- [泣いてある]

歩いてゐる 走つてゐる 飛んでゐる (山を) 下りてゐる 渡つてゐる もぐつてゐる
 怒つてゐる 泣いてゐる 合流してゐる 笑つてゐる² ほほゑんでゐる 悲しんでゐる
 接近してゐる² (接近中)

動作の動詞は進行状況を報告する形が自然に認められる。トルコ語自動詞の進行形 'yür-üyor' (歩きよる, 歩きをり) に偶然似た進行形が古語や方言に存在する。

[カ] 動作 (うごき) の他動詞 + ☆ [開けてゐる]・+ [開けてある]

開けてある 閉めてある 考えてある 止めてある 送つてある おとしてある
 隠してある (印を) 付けてある¹ はづしてある 貸してある 借りてある 工夫してある
 呼んである 置いてある 解いてある おろしてある 見つけてある 変へてある
 直してある

この一覧表からわかるのは、[カ]・[キ]の動作の他動詞だけに「前以て～して

「ある」の形も可能である」の形が認められるといふ事実である。ここでは仮に「うごき」の動作と「しごと」の動作に分類してみた。果たして「よく考えてある」が動きの動作であるかどうか、考えものではあるが。

進行を「開けよる」、結果を「開けとる」と言ひ分ける方言もあるが、東京方言などは、いはゆる TE-form (接続助詞「て」のつく形) で両方を表すしかない。

[キ] 動作(しごと)の他動詞 +☆[書いてゐる]・+[書いてある]

書いてある 読んである (跡を)付けてある² 煮てある 焼いてある
 (塩を)振ってある 延ばしてある (薬を)のんである (充分に)食べてある(?)
 干してある 練ってある 替えてある (ねじを)巻いてある (種を)蒔いてある
 用意してある 準備してある 工夫してある セットしてある

しごとの動作には目に見える結果があるので、当然、作業中の進行形と結果の「～してある」とが成り立つことになる。

[ク] 状態自動詞の困惑の受身 + [降られてゐる]・-[降られてある]

(雨に)降られてゐる (親に)死なれてゐる
 (病気に)なられてゐる (夜おそく)来られてゐる

尊敬の「来られている」等は別。

[ケ] 動作の他動詞の受身 +◎[書かれてゐる]・-[書かれてある(九州方言?)]

*読まれてある *書かれてある *殺されてある *入れられてある *出されてある
 *しめ出されてある *提供されてある *困らせられてある *迷惑させられてある
 *魅せられてある *ほめられてある *決定されてある

*印の文はむだではないか? 「*書かれてある」など、「書く+ある→書かる、書かれる」にさらに「ある」を添えるのはむだに思へるが、例えば鹿児島などで「書かれて+ある」とレポートに書いてゐる学生がかなり多かった。

2.3. 自動詞に「～してある」はない

以上、どの性質の動詞類が「してゐる」形式によって動作の進行と状態・結果の存続の両方を表し、どの動詞が状態の存続しか示さないかを、観察してきた。例えば「窓が開けてある」は、すでにだれかが何らかの理由・目的から窓を開けた状況が見て取れる。「窓が開いてゐる」は単に窓が開いたままになってゐる様子である。

[J23-1] 暑いから、窓は開けてあるのだ。〔他動詞〕 'The windows are kept opened, as it is

warm.’

[J23-2] 暑いから、窓は開いてゐるのだ。〔自動詞〕

[J23-3] 壁に何か書いてある。〔他動詞〕 ‘You can see some thing written on the wall.

[J23-4] 壁に何か書かれてゐる。〔自動詞〕

「あく（開く・明く・空く）／あいて」や「咲く／咲いて」などは自動詞であり、「あいてゐる、咲いてゐる」と言っても、窓や花が自分自身で行動を進行させてゐることを表すわけではない。「咲いてある」と言はなくとも、当然「咲いてゐる」の形で咲いた結果を示す表現となる。したがって、これらの自動詞には「してある」形式は必要でない。「してゐる」形式によって「今ドアを開けてゐるところだ」と動作の進行を伝える他動詞の場合にだけ「してある」による状況描写が必要になるわけである。同じ他動詞といへども、感情を表す「愛する」や「忘れる」なども、計画的に「愛してある」とか「忘れてある」と表現することは、ほとんど考へられない。

をはりに

日本語教授法を開講して以来、日本語の特色の一つとしての「ある」と「ゐる」の区別、きはめて有用なその延長としての「してゐる」と「してある」について、講義用の資料をくりかへし修正しつつ作ってきた。本論は、それらの資料と講義中に話してきた内容をまとめたものである。日本語とよく似た韓国語などの諸言語ですら、「ある」と「ゐる」の区別はないので、われわれが何げなく使ひ分けてゐる、このやうな表現も、思ひのほか根本的にして重要な研究対象なのである。今回は扱はなかつた「だんだん涼しくなってくる」や「難しくなっていく」などの微妙な言ひ方なども、興味深い日本語の表現法である。

注

- (1.3) 本論文では韓国語（朝鮮語）をローマ字で表記する。ただし、便宜上、音素としては対立しない無声音（c, k, p, t）とその allophones（異音）である有声音（濁音 j, g, b, d）とを書き分ける。喉頭緊張音（濃音）は、ハングル表記を転写して‘cc, kk, pp, tt, ss’とする。主な母音の表記は、‘e’ [ə], ‘ey’[e], ‘ay’[ε], oy[œ または we], ‘u’[ɯ], ‘wu’[u].
- (1.4) 「入る」の「」は現代標準語におけるアクセント核の位置を示す。
「要る」の「」はその後のモーラ（拍）がすべて高い平板アクセントを示す。

(21-1) 小沢重男『モンゴル語四週聞』, 大学書林, 1963, p.84

(21-2) 萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』, 三省堂, 1996

【参考文献】

佐藤喜代治『国語学研究事典』, 明治書院, 1977

国語学会『国語学大辞典』, 武蔵野書院, 1980

時枝誠記『日本文法 口語篇』, 岩波書店, 1950

金田一春彦『日本語動詞のアスペクト』

小泉 保『日本語教師のための言語学入門』, 大修館書店, 1993

新屋映子・姫野伴子・守谷三千代『日本語教科書の落とし穴』, アルク, 1999

益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法』改訂版, くろしお出版, 1992

朴在權『現代日本語・韓国語 格助詞の比較研究』, 勉誠社, 1997

梁昊淵『要説韓国語文法』, 高麗書林, 1982

萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』, 三省堂, 1996

清瀬義三郎則府『日本語学とアルタイ語学』, 明治書院, 1991

小沢重男『モンゴル語の話』, 大学書林, 1978

津曲敏郎『満洲語入門 20 講』, 大学書林, 2002

松谷浩尚『中級トルコ語詳解』第1版, 大学書林, 1991

ほか